



全国高校総合文化祭予日前イベントでは、部で開発したソフトを来場者に体験してもらった＝11月3日、秋田市文化創造館



秋田市内周辺の観光情報などを紹介するスマートフォンアプリの開発で、動作チェックをする部員＝11月7日、秋田市の秋田商業高校

「AKISHOP」の販売商品

実社会と結びつくビジネス実践として、課金の販売から直販、販売手数料を全額返すまで、買って与ける「AKISHOP(アキショップ)」は、今年で2222日。秋田商高の特色である授業の一環として、活動をアータの面からも見えよう、コンピュータ部は本年度、商高情報科をウェブ上で運営するシステムの開発に挑んだ。マスター(部長)の吉川大輔さん(2年)らが中心となって開発に着手。今年9月までに

ウェブ上で一元的管理



完成した。2016年以降に培った運営基盤の成果を一目してはいるが、仕入れや販売数量・在庫・命題のデータ系系に、部々の利益率を算出、販売金額がいくらで、いくらで売れたのか、といった細かい数字を、部員一人ひとりが把握できるように、ウェブ上で一元管理できるように、開発を進めている。

行ったかといった細かい情報も盛り込んだ。全体の売り上げなど前年と比較できる。売れる商品をさらにどう伸ばすか、売れなかった商品はどこに卸すか、といった、部員がどうリテラシーの開発が求められるかといった情報も提供できる。また、集めた情報から部員もわかる「データインフォ」の情報を掲載している。



©秋田魁新報社

役に立つ開発に挑む

「役に立つ開発に挑む」は、秋田商業高校のコンピュータ部が、今年度から取り組んでいるプロジェクト。部員たちは、実社会と結びつくビジネス実践として、課金の販売から直販、販売手数料を全額返すまで、買って与える「AKISHOP(アキショップ)」を開発している。このプロジェクトは、部員一人ひとりが、ウェブ上で一元管理できるように、開発を進めている。



秋田商業高 コンピュータ部



秋田商業高校のコンピュータ部は、今年度から取り組んでいる「役に立つ開発に挑む」というプロジェクト。部員たちは、実社会と結びつくビジネス実践として、課金の販売から直販、販売手数料を全額返すまで、買って与える「AKISHOP(アキショップ)」を開発している。このプロジェクトは、部員一人ひとりが、ウェブ上で一元管理できるように、開発を進めている。

▼部員から一言
「役に立つ開発に挑む」は、秋田商業高校のコンピュータ部が、今年度から取り組んでいるプロジェクト。部員たちは、実社会と結びつくビジネス実践として、課金の販売から直販、販売手数料を全額返すまで、買って与える「AKISHOP(アキショップ)」を開発している。このプロジェクトは、部員一人ひとりが、ウェブ上で一元管理できるように、開発を進めている。

▼部長から一言
「役に立つ開発に挑む」は、秋田商業高校のコンピュータ部が、今年度から取り組んでいるプロジェクト。部員たちは、実社会と結びつくビジネス実践として、課金の販売から直販、販売手数料を全額返すまで、買って与える「AKISHOP(アキショップ)」を開発している。このプロジェクトは、部員一人ひとりが、ウェブ上で一元管理できるように、開発を進めている。

▼常に見直しかける
「役に立つ開発に挑む」は、秋田商業高校のコンピュータ部が、今年度から取り組んでいるプロジェクト。部員たちは、実社会と結びつくビジネス実践として、課金の販売から直販、販売手数料を全額返すまで、買って与える「AKISHOP(アキショップ)」を開発している。このプロジェクトは、部員一人ひとりが、ウェブ上で一元管理できるように、開発を進めている。